

2021年度 決算説明会

2022年4月28日
株式会社村田製作所



当決算説明会のトピックス(1/2)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2021年度実績

売上・損益

- 売上高は、コンデンサやリチウムイオン二次電池などが増加し、前期比+11.2%の1兆8,125億円。営業利益も前期比+35.4%の4,241億円となり、売上高、営業利益ともに過去最高を更新。
- 業績予想比で売上高+2.4%、営業利益+3.4%の上振れ。カーエレクトロニクスやEDP向けで売上高が上振れ。生産高増加による操業度益や、円安効果などにより営業利益も上振れ。

株主還元

- 期末配当金を従来予想比で5円増配、1株あたり70円を予定(年間配当金は130円)。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

2

2021年度決算について説明いたします。

売上高は前期比11.2%増の1兆8,125億円、営業利益は35.4%増の4,241億円となりました、ともに過去最高を更新しています。それから、既に発表しております業績予想比では、売上高で2.4%、営業利益で3.4%の上振れでした。

株主還元は、これまで予定しておりました配当金に5円増配しまして、年間配当金を130円の予定に変更しております。

当決算説明会のトピックス(2/2)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2022年度見通し

売上・損益

- 売上高は、前期比+6.5%の増収を計画。コンポーネントを中心としたカーエレクトロニクス向けの増加やパワーツール向けでリチウムイオン二次電池の増加を見込む。
- 営業利益は、前期比+3.8%の増益。値下がりや固定費の増加は見込まれるが、円安効果や合理化の推進により増益を計画。

設備投資

- 中期的な部品需要の拡大に備え生産能力増強投資を中心に、前期比872億円増の2,400億円を計画。

株主還元

- 年間配当金は1株あたり150円と前期比で20円の増配を予定。
- 800億円を上限とした自己株買いの実行。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

3

次に、2022年度見通しの概要です。

売上高は前期比6.5%増、営業利益は前期比3.8%増で、ともに過去最高を更新する計画です。設備投資につきましては、2022年度に2,400億円を計画しています。

株主還元につきましては、2022年度も20円増配の150円の配当金を計画しております。また、今回800億円を上限とした自己株式の取得を計画しております。

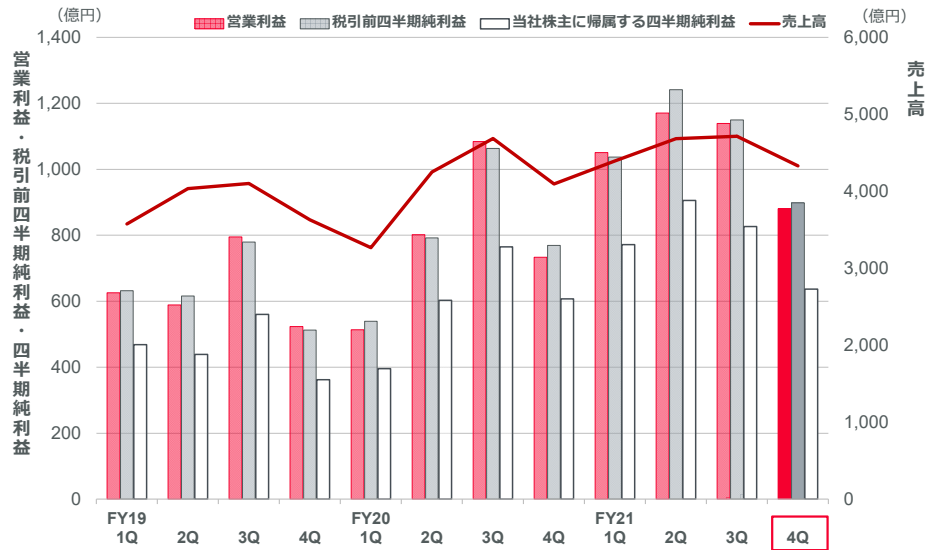
2021年度 業績概要

2021年4月～2022年3月
連結累計期間



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

業績推移（四半期）



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

5

こちらは四半期の業績推移のグラフですので、説明を省略させていただきます。

業績概況（2021年度通期）

	2020年度 通期		2021年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	16,302	100.0	18,125	100.0	+1,823	+11.2
営業利益	3,132	19.2	4,241	23.4	+1,108	+35.4
税引前当期純利益	3,164	19.4	4,327	23.9	+1,163	+36.8
当社株主に帰属する 当期純利益	2,371	14.5	3,141	17.3	+771	+32.5
ROIC(税引前) (%)	18.5		22.6			
為替 (円/USD)	106.06		112.38			

- ・ 売上高は、円安効果に加え、コンデンサがコンピュータ及び関連機器向けやカーエレクトロニクス向けで大きく増加したことや、リチウムイオン二次電池がパワーツール向けで増加したことにより増収。
- ・ 生産高増加に伴い生産関連費用は増加したが、操業度益やコストダウン、円安効果などにより増益。
- ・ 売上高と各利益は過去最高を更新。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

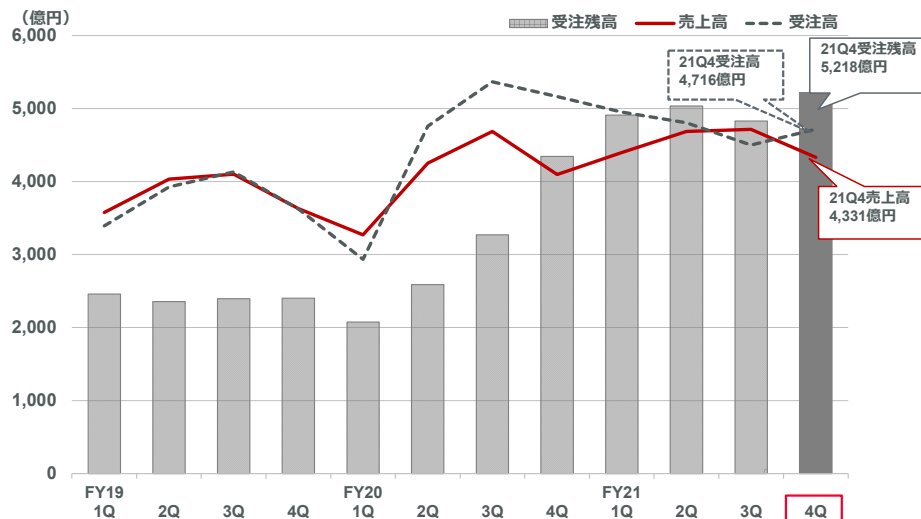
6

数字の詳細については省略させていただきますが、ROICにつきましては、前期に比べて上昇しておりまして、2021年度は22.6%となりました。

為替につきましては、記載の通り112.38円です。

売上・受注・注残推移（四半期）

- ・ 前四半期比でカーエレクトロニクス向けでコンデンサの受注が増加。全社のBBレシオは1を上回り、注残は増加。
- ・ 注残は過去最高を更新。ただし、3月末に円安が急激に進行したことによる為替影響での増加も含まれている。



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

7

売上・受注・注残推移です。

第4四半期の売上高は季節的な要因もあって、第3四半期に比べて若干減少しておりますけれども、受注高につきましては第4四半期にて増加しております。その結果として、BBレシオは1を上回りました。

また、受注残高は過去最高を更新しております。こちらは、期末の為替レートに基づき期末の受注残高を計算している影響もございます。

製品別売上高（2021年度通期）

	2020年度 通期		2021年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	6,265	38.5	7,853	43.4	+1,587	+25.3
圧電製品	1,293	8.0	1,384	7.7	+91	+7.0
その他コンポーネント	3,876	23.8	4,604	25.4	+728	+18.8
モジュール	4,841	29.7	4,256	23.5	▲585	▲12.1
製品売上高計	16,276	100.0	18,096	100.0	+1,820	+11.2

2021年度の売上高の品種別の概要です。この詳細につきましては、次のページで説明させていただきます。

製品別売上高概況 [2020年度→2021年度]

コンデンサ (前期比 + 25.3%)	○積層セラミックコンデンサ (MLCC) リモートワークやオンライン教育の需要を背景としてPC向けに大きく増加したほか、電装化の進展や顧客による部品在庫の積み増し需要によりカーエレクトロニクス向けに増加
圧電製品 (前期比 + 7.0%)	○圧電センサ HDD向けに増加 ○発振子 幅広い用途で増加 ○表面波フィルタ IoT機器向けに増加
その他コンポーネント (前期比 + 18.8%)	○リチウムイオン二次電池 パワーツール向けに大きく増加 ○インダクタ PCやカーエレクトロニクス向けに増加
モジュール (前期比 ▲12.1%)	▲コネクティビティモジュール 製品ポートフォリオ見直しによりスマートフォン向けの売上が減少 ▲樹脂多層基板 通信機器向けに減少

まず、コンデンサですが、前期比25.3%増でした。PC、カーエレクトロニクス向けに主に増加しております。圧電製品につきましては、圧電センサ、発振子にて増加しております。表面波フィルタにつきましても、IoT機器向けに増加しています。合計で7.0%の増加でした。

その他コンポーネントにつきましては、リチウムイオン二次電池でパワーツール向け、インダクタでPC向け、カーエレクトロニクス向けに増加して18.8%の増加となっています。モジュールについては、マイナス12.1%となっています。これは製品ポートフォリオの見直しによるコネクティビティモジュールの減少、また樹脂多層基板でも減少しております。

用途別売上高（2021年度通期）

	2020年度 通期		2021年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	719	4.4	715	3.9	▲4	▲0.6
通信	8,049	49.5	7,792	43.1	▲257	▲3.2
コンピュータ及び関連機器	2,915	17.9	3,604	19.9	+689	+23.6
カーエレクトロニクス	2,732	16.8	3,363	18.6	+631	+23.1
家電・その他	1,861	11.4	2,622	14.5	+761	+40.9
製品売上高計	16,276	100.0	18,096	100.0	+1,820	+11.2

（注）当社推計値に基づいております

用途別売上高概況 [2020年度→2021年度]

AV (前期比▲0.6%)	○デジタルカメラ向けでリチウムイオン二次電池が増加 ▲セットトップボックス向けで積層セラミックコンデンサが減少
通信 (前期比▲3.2%)	○スマートフォン向けで積層セラミックコンデンサが増加 ▲スマートフォン向けで事業ポートフォリオ見直しによりコネクティビティモジュールが減少 ▲スマートフォン向けで高周波モジュールが減少
コンピュータ及び関連機器 (前期比+23.6%)	○PCやサーバー向けで積層セラミックコンデンサやインダクタが大きく増加
カーエレクトロニクス (前期比+23.1%)	○電装化の進展や顧客による部品在庫の積み増し需要により、積層セラミックコンデンサが大きく増加 ○EMI除去フィルタやインダクタが増加
家電・その他 (前期比+40.9%)	○パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が大きく増加 ○代理店向けで積層セラミックコンデンサが増加

(注) 当社推計値に基づいております

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

11

AV機器と通信につきましては、前期比でマイナスになっています。AV機器につきましては、主にコンポーネントとリチウムイオン二次電池で若干減少しています。通信につきましては、スマートフォン向けで積層セラミックコンデンサが増加しています。一方で、モジュール関係で前期比減少しており、全体ではマイナスとなっています。

コンピュータ及び関連機器向け、カーエレクトロニクス向けに関しましては、積層セラミックコンデンサ、それからEMI除去フィルタ、インダクタが増加しております。

家電・その他向けにつきましては、パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が増加し、代理店向けで積層セラミックコンデンサが増加しています。結果として、前期比40.9%の増加となっております。

セグメント情報

		2020年度 累計 (億円) (%)		2021年度 累計 (億円) (%)		増減 (億円) (%)	
コンポーネント	売上高	11,754	100.0	14,166	100.0	+2,412	+20.5
	事業利益	3,130	26.6	4,526	32.0	+1,396	+44.6
モジュール	売上高	4,841	100.0	4,256	100.0	▲585	▲12.1
	事業利益	543	11.2	385	9.1	▲158	▲29.0
その他	売上高	611	100.0	613	100.0	+2	+0.3
	事業利益	78	12.7	69	11.3	▲8	▲10.7
消去又は本社部門	売上高	▲904	-	▲909	-	▲5	-
	本社部門費	▲618	-	▲740	-	▲122	-
連結	売上高	16,302	100.0	18,125	100.0	+1,823	+11.2
	営業利益	3,132	19.2	4,241	23.4	+1,108	+35.4

- ・ コンポーネント コンデンサやインダクタの売上が大きく増加したことにより増収増益。
- ・ モジュール コネクティビティモジュールにおいて事業ポートフォリオ見直しにより売上が減少したほか、樹脂多層基板や高周波モジュールの売上が減少したことから、減収減益。

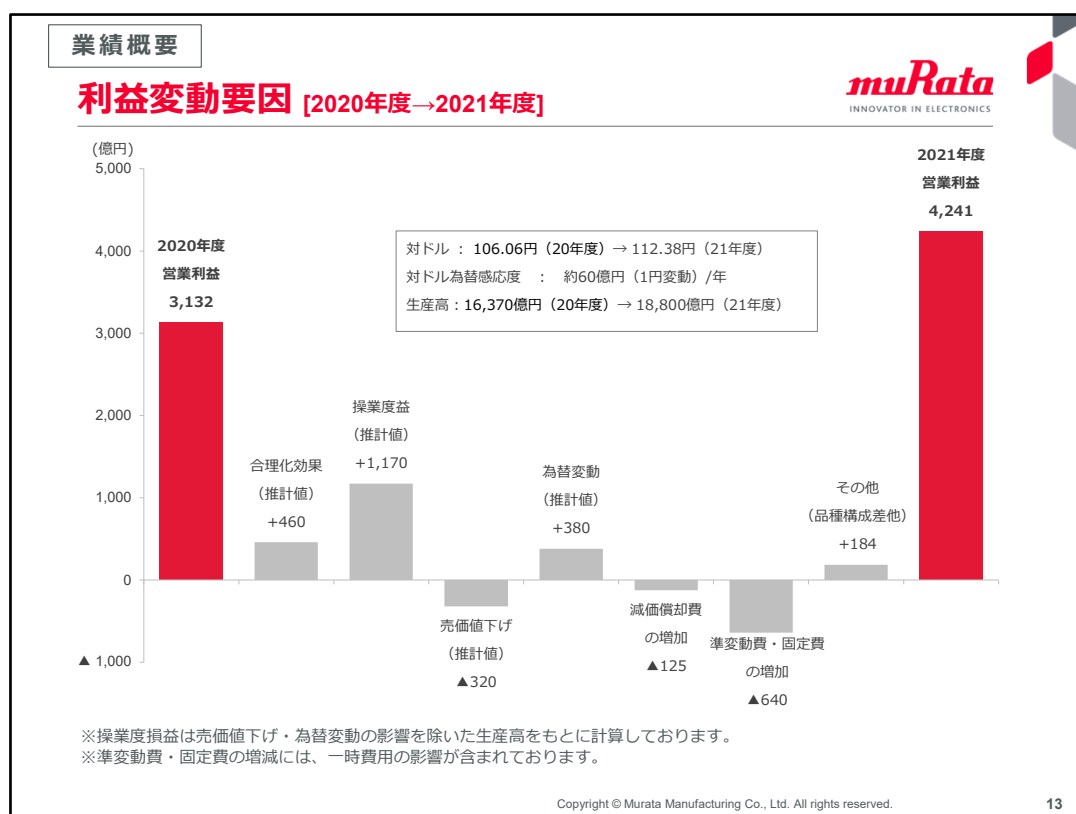
Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

12

セグメント情報です。

コンポーネントビジネスは、前期に比べて増収増益となっています。

一方で、モジュールビジネスにつきましては、減収となったことが影響しまして、減益となっております。



2020年度に対する利益の変動要因です。

増益要因の大部分は操業度益です。2021年度は在庫を積んでいますので、売上高の増加をさらに上回る生産高の増加があり操業度益が大きく出ています。それから為替の影響もプラスに出ています。

一方で、準変動費・固定費につきましては、生産関連費用、物流費の増加や2020年度にコロナ禍で抑制されていた固定費の反動増、コロナ禍や過去最高益に対して従業員に報いるということでグローバルでの特別賞与の支給30億円を計上したなどにより増加しています。

キャッシュ・フロー

	2020年度 通期 (億円)	2021年度 通期 (億円)	増減 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	3,736	4,215	+479
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,503	▲ 2,123	▲ 620
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 1,182	▲ 1,175	+7
為替変動による影響	3	127	+124
現金及び同等物残高	4,077	5,121	+1,044
フリーキャッシュフロー	2,233	2,092	▲ 141
固定資産の取得	▲ 1,999	▲ 1,505	+493
減価償却費	1,431	1,556	+125

- ・ 前年同期比で大幅な増益となることから、営業キャッシュ・フローは増加。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローにおいて、Eta Wireless社やResonant社の買収による支出(488億円)が発生。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローにおいて、社債の減少(400億円)が発生。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

14

キャッシュ・フローです。

営業活動によるキャッシュ・フローは前期比プラス479億円ですが、これは先ほど申し上げました在庫の増加を含んだ上での金額になっています。

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては前期比マイナス620億円ですが、この中には、Eta Wireless社、Resonant社の買収による支出が含まれております。

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、社債の償還による減少400億円も含まれております。

期末の現金及び同等物残高は5,121億円となっております。

2022年度 業績予想 (2022年4月～2023年3月)



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2022年度 業績予想

	2021年度 実績		2022年度				増減	
			上期予想	下期予想	通期予想			
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	18,125	100.0	9,520	9,780	19,300	100.0	+1,175	+6.5
営業利益	4,241	23.4	2,090	2,310	4,400	22.8	+159	+3.8
税引前当期純利益	4,327	23.9	2,100	2,320	4,420	22.9	+93	+2.1
当社株主に帰属する当期純利益	3,141	17.3	1,540	1,700	3,240	16.8	+99	+3.1
ROIC(税引前) (%)	22.6				21.6		▲1.0	
為替(円/USD)	112.38				120.00			

- ・ コンデンサやインダクタ、EMI除去フィルタがカーエレクトロニクス向けで増加するほか、リチウムイオン二次電池がパワーツール向けで増加することを見込む。また、円安効果もあり、前期比で増収を計画。
- ・ 製品価格の値下がり、固定費の増加などの減益要因はあるものの、円安効果やコストダウンなどにより、前期比増益を計画。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

16

2022年度の業績予想の概要です。

売上高は6.5%増の1兆9,300億円、営業利益は3.8%増の4,400億円を計画しております。品種別、並びに利益の増減要因につきましては、後ほど説明させていただきます。

業績予想		
事業環境認識		
	業績予想前提	業績予想に織り込んでいないリスク
売上	・ 中華圏スマートフォンメーカー向けの需要はQ2から回復 ・ 中国におけるロックダウンによるサプライチェーンの混乱はQ2に正常化 ・ 顧客によるBCP在庫の取り崩しは無い ・ ウクライナ危機に伴う自動車の生産台数減少(約250万台の減少)	・ 中華圏スマートフォンメーカー向けの需要の回復遅れ ・ 中国におけるロックダウン影響の長期化 ・ ウクライナ危機の長期化によるセット台数のさらなる減少 ・ 物価上昇による消費者の購買意欲の減退
生産	・ 中国におけるロックダウンによるサプライチェーンの混乱はQ2に正常化 ・ 中国におけるロックダウン以外の生産制約は発生しない	・ 中国ロックダウン影響の長期化による当社工場の稼働減 ・ 日本国内における電力需給逼迫に伴う当社工場の稼働率低下
費用	・ 原材料高騰や電力料金の上昇によるコスト増を反映(3月末時点の状況をもとに試算)	・ 原材料のさらなる高騰 ・ 電力料金における燃料調整費の上昇 ・ 物流費高騰の長期化

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

17

今回業績予想を作成するにあたりまして、前提としました事項について説明させていただきます。ともに、前提に対してさらに織り込んでないリスクを含めて説明させていただきます。

まず、売上面ですが、中華圏スマートフォンメーカー向けは2021年度の後半以降、低迷していましたが、2022年度の第2四半期からの回復を織り込んでおります。一方で、回復がさらに遅れますと、それはリスクとなります。

次に、売上と生産で、中国のロックダウンによる影響を記載しております。当社の想定としましては、これも第2四半期に正常化することを考えています。具体的には、売上高に対しては第1四半期に200億円程度の売上減少の影響が出るという推測に基づき計画しています。これが第2四半期以降に正常化することによって、通期ではほとんど影響が出ないという前提となっています。ただ、これもさらに長引く、あるいは通期での影響となってきますと、リスクとなります。

また、ウクライナ危機に伴う影響ということで言えば、一番大きな点は自動車の生産台数と考えています。こちらに関しましては、250万台の減少を織り込んでおります。

その他、コスト面で原材料高騰、電力料金の上昇によるコスト増を反映させておりますが、これはあくまでも3月末時点の状況をもとに試算しておりますので、さらなる原材料、エネルギー費の増加はリスクとなります。

部品需要予測

	2021年度 実績	2022年度 予想	増減	
スマートフォン	13.6 億台	13.7 億台	+ 1%	→
内 5G端末	5.6 億台	7.5 億台	+ 32%	↗
PC	5.0 億台	4.8 億台	▲4%	↘
自動車	7,600 万台	8,400 万台	+ 10%	↗
内 xEV	1,600 万台	2,400 万台	1.5倍	↗

(注) 自動車は生産台数ベース

- ・ スマートフォン：中華圏スマートフォンメーカーの回復は見込むも、市場全体の伸びは鈍化を見込む。
- ・ PC：リモートワークやオンライン教育向けの需要の剥落により台数は減少。
- ・ 自動車：半導体不足の回復に伴い生産台数の増加を見込む。特にxEVで大きな伸びを見込む。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

18

部品需要予測です。

スマートフォンは前期に対しましてプラス1%、うち5G端末は32%の増加、PCはマイナス4%、自動車はプラス10%と見込んでいます。自動車では従来のガソリンエンジン車は横ばいと見ていますが、xEVに関しては1.5倍という想定をしております。

開示セグメントおよび売上高区分の見直し

旧セグメント区分（～2021年度）

セグメント	売上区分	主な製品
コンポーネント	コンデンサ	積層セラミックコンデンサ
	圧電製品	表面波フィルタ
		圧電センサ
		発振子
モジュール	その他コンポーネント	インダクタ
		EMIフィルタ
		リチウムイオン二次電池
		コネクタ
		センサ
		サーミスタ
		高周波モジュール
モジュール		多層デバイス
		コネクティビティモジュール
		樹脂多層基板
		電源モジュール
		ソリューション
		機器製作
その他		ソフトウェアの販売

新セグメント区分（2022年度～）

セグメント	売上区分	主な製品
コンポーネント	コンデンサ	積層セラミックコンデンサ
	インダクタ・EMIフィルタ	インダクタ EMIフィルタ
デバイス・モジュール	高周波・通信	表面波フィルタ
		高周波モジュール
		多層デバイス
		コネクタ
		コネクティビティモジュール
		樹脂多層基板
	エナジー・パワー	リチウムイオン二次電池
		電源モジュール
	機能デバイス	センサ
		タイミングデバイス（発振子）
その他		ソリューション
		機器製作
		ソフトウェアの販売

- ・ 2023年3月期より、3層ポートフォリオにあわせた開示セグメントに変更。
- ・ 経営の透明性を高めることで、ステークホルダーとの積極的な対話や自律分散型の組織運営の促進につなげる。

今年度から開示セグメントを変更しております。

製品別売上予想

	2021年度 通期実績 (億円)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	7,885	+ 11%程度	+ 6%程度
インダクタ・EMIフィルタ	1,958	+ 10%程度	横這い
コンポーネント	9,843	+ 11%程度	+ 5%程度
高周波・通信	5,282	▲ 10%程度	▲ 3%程度
エナジー・パワー	1,804	+ 27%程度	+ 5%程度
機能デバイス	1,064	+ 10%程度	横這い
デバイス・モジュール	8,150	+ 1%程度	横這い
売上高合計	18,096	+ 6%	+ 3%

2021年度の業績推移(四半期)はP.50参照

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

20

製品別の売上予想です。これに関しましては、次のページのコメントとともに説明させていただきます。

コンデンサ (前期比 + 11 %程度)	○積層セラミックコンデンサ (MLCC) 自動車の生産台数の増加や電装化の進展に伴う員数の増加、5Gスマートフォンの台数増加により増収を計画
インダクタ・EMIフィルタ (前期比 + 10 %程度)	○インダクタ・EMI除去フィルタ 自動車の生産台数の増加や電装化の進展、5Gスマートフォンの台数増加により需要が伸長することから増収を計画
高周波・通信 (前期比 ▲ 10 %程度)	▲コネクティビティモジュール 事業ポートフォリオ見直しを継続するため減収を計画 ▲高周波モジュール スマートフォン向けで減少を見込む
エネルギー・パワー (前期比 + 27 %程度)	○リチウムイオン二次電池 パワーツール向けで旺盛な需要の継続を見込み、増収を計画
機能デバイス (前期比 + 10 %程度)	○センサ・タイミングデバイス スマートフォンにおける員数増や自動車の高機能化により増収を見込む

コンデンサにつきましては、主にモビリティ向けの増加を見込んでおります。モビリティ向けの場合は自動車の台数増と、高機能化・電動化の進展を見込んでおります。スマートフォン向けにつきましては5Gの浸透による員数の増加を見込んでおります。

インダクタ・EMIフィルタも、同様にモビリティ、5Gスマートフォン向けでプラスを見込んでおります。

高周波・通信に関しましては、2022年度もコネクティビティモジュールで、事業ポートフォリオの見直しの影響が出ていますので減収を見込んでおります。また、高周波モジュールにつきましても、減少を見込んでおります。

エネルギー・パワーにつきましてはプラスの27%、これはパワーツール向けのリチウムイオン二次電池の増加を見込んでおります。

機能デバイスにつきましては、スマートフォン、あるいはモビリティ向けの員数増を見込んでプラス10%を見込んでおります。

用途別売上高区分の見直し

～2021年度

売上区分	主な用途
AV	テレビ、ゲーム機
	デジタルカメラ
通信	スマートフォン
	ウェアラブル機器
	基地局
コンピュータ及び関連機器	PC関連機器
	産業機器
カーエレクトロニクス	自動車
	2輪車
家電・その他	家電製品
	その他

2022年度～

売上区分	主な用途
通信	スマートフォン
	ウェアラブル機器
	基地局
モビリティ	自動車
	2輪車
コンピュータ	PCおよび関連機器
家電	テレビ、ゲーム機
	デジタルカメラ
	パワーツール
	家電製品
産業・その他	産業機器
	その他

2023年3月期より、開示セグメントの変更に合わせて用途別売上高区分を見直す

開示セグメントの見直しに伴い、用途別の売上区分も見直しております。

用途別売上予想

	2021年度 通期実績 (億円)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 下期予想 (上期比)
通信	7,792	+1%程度	+1%程度
モビリティ	3,363	+21%程度	+9%程度
コンピュータ	2,975	+2%程度	+6%程度
家電	1,832	+23%程度	▲3%程度
産業・その他	2,134	▲4%程度	+1%程度
売上高計	18,096	+6%	+3%

(注) 当社推計値に基づいております
 2021年度の業績推移(四半期)はP.50参照

通信、コンピュータ向けにつきましては前期比微増を計画しております。一方で、モビリティ向けに関しましては、先ほど申し上げたような影響で、台数および員数の増加ということでプラス21%を計画しております。

家電向けについては、主にはパワーツール向けの増加が寄与してプラス23%増加。

産業・その他向けは、代理店向けの売上が若干減少する前提で、マイナス4%を見込んでいます。

業績予想の前提

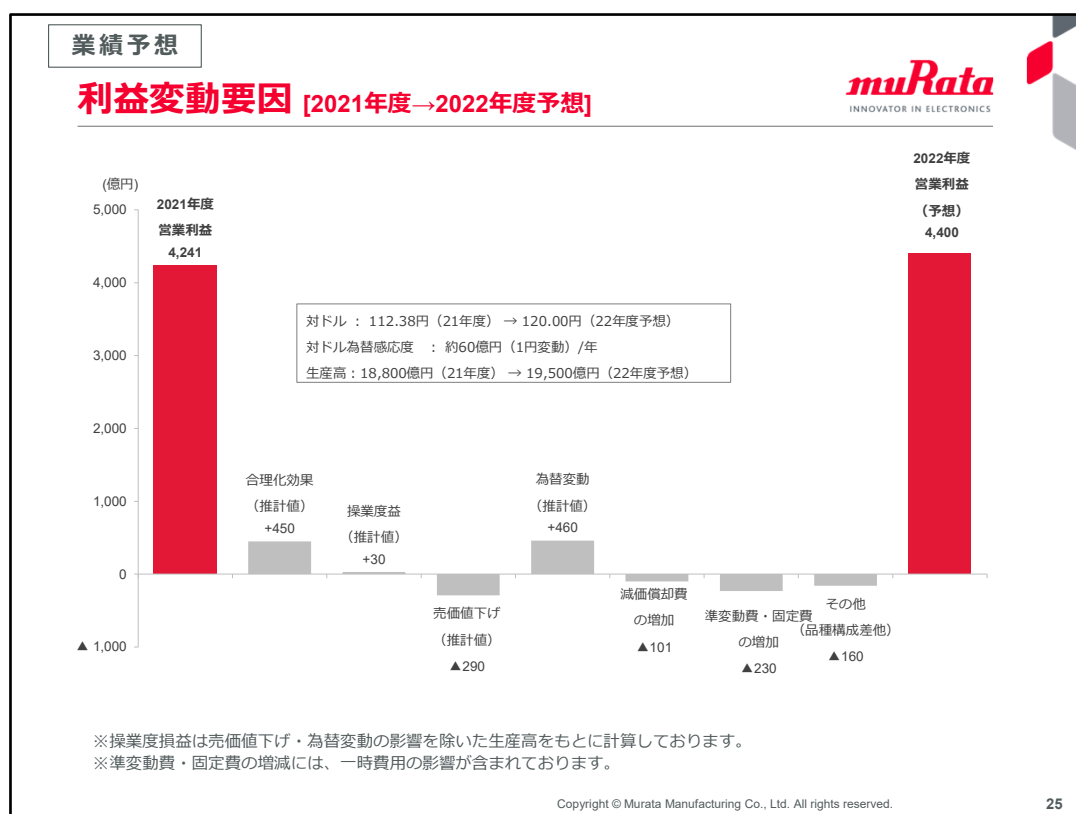
	2021年度 実績	2022年度 予想
減価償却費	1,556 億円	1,660 億円
研究開発費	1,113 億円	1,160 億円
設備投資額	1,528 億円	2,400 億円
為替レート(USD)	112.38 円/USD	120.00 円/USD

【対ドル為替感応度(1円変動/年)】

売上 2022年度：約110億円

営業利益 2022年度：約60億円

業績予想前提に関しましては、こちらに記載の通りです。詳細は割愛します。



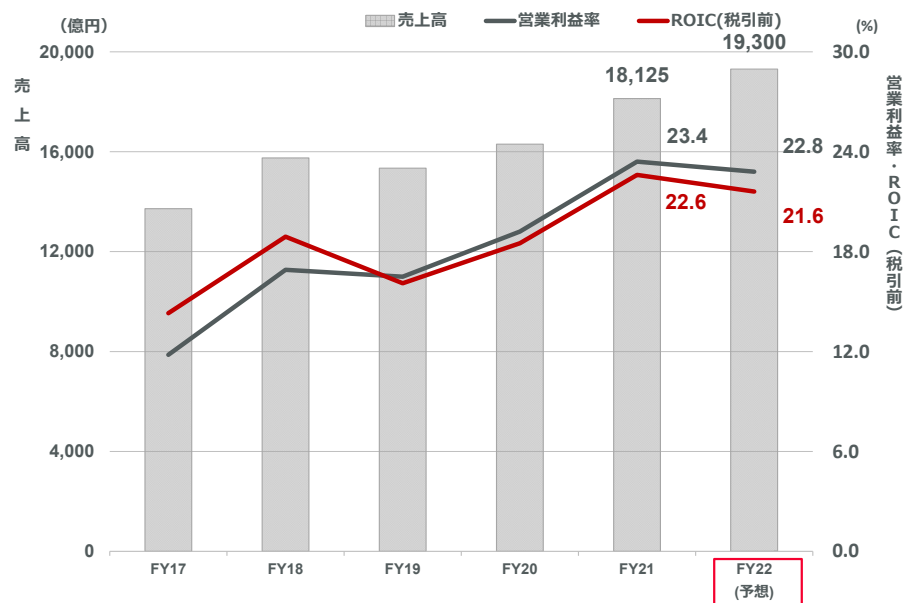
利益の変動要因です。

生産高に関しましては、記載の通り、1兆8,800億円から2022年度1兆9,500億円で、2022年度も在庫を若干積む計画をしております。一方で、操業度益がほとんど出ておりませんが、これは為替の影響を巻き戻した結果としては、操業度益はそれほど大きくないとご理解ください。為替は120円前提で、プラス要因に入っています。

準変動費・固定費につきましては、先ほどのエネルギー費の増加に加え、2021年度に買収した企業の固定費、無形固定資産の償却といったものを30億から40億円程度織り込んでおります。また、セキュリティ費等のインフラ費用の増加も見込んでおります。

その他の品種構成差がマイナスとなっていますが、これはコンデンサが増加する一方でリチウムイオン二次電池も増加することによる製品ミックスの悪化となります。また、材料費の増加はここに含まれています。そのうち一定のものについて価格転嫁を計画しており、そのプラス影響は売値下げに入っています。

業績推移（通期）

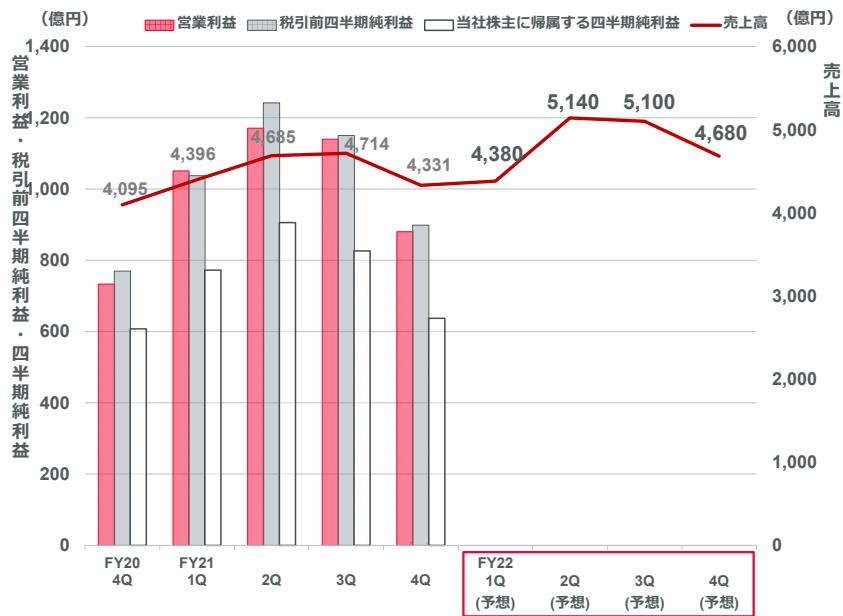


詳細は割愛しますが、ROICにつきましては1ポイント低下して21.6%を計画しています。

業績予想

業績推移（四半期）

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

27

四半期ごとの推移です。

先ほど前提のほうで申し上げましたが、第1四半期で200億円程度中国でのロックダウンの影響を見えています。その後、第2四半期では売上は増加基調に戻り、第4四半期は季節的な要因で落ちるといった推移で見えております。

株主還元

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

- 2022年度（2023年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間150円
（中間配当75円／期末配当75円）
※年間配当を前年度比20円増配

- 2021年度（2022年3月期）の配当
1株当たり年間130円
（中間配当60円／期末配当70円）
※期末配当を従来予想比5円増配

※当 配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

株主還元です。

配当は2021年度は130円に変更します。2022年度は20円の増配で、150円を計画しております。

自己株式取得



2022年4月28日取締役会において自己株式取得の決議

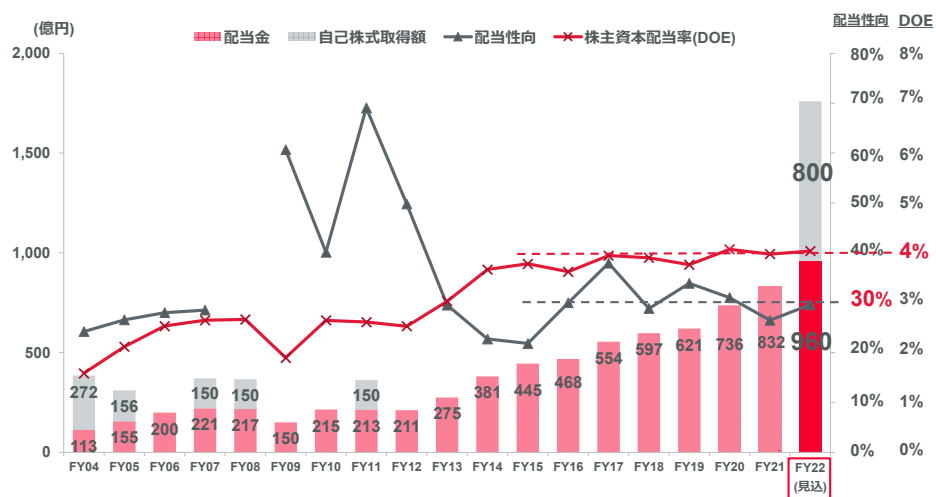
- 取得株式総数：1,600万株（上限）
（発行済株式総数(自己株式除く)の2.50%）
- 取得金額：800億円（上限）
- 取得期間：2022年5月2日～2022年10月31日
- 理由：資本効率の向上を図るとともに、機動的な財務戦略を可能にするため

自己株式の取得につきましては、800億円を上限に計画しております。

自己株式取得の背景を補足しますと、当社は手元流動性比率を2.5から3.5カ月程度を基準に考えていますが、22年3月末でその基準を少し上回っております。また、中期方針2024のキャピタル・アロケーションにつきましては、現時点でその計画通りのキャッシュを生み出せるということもありまして、今回800億円の取得を計画しました。

株主還元推移

- 配当 配当の安定的な増加を基本方針としており、
中期的に配当性向30%程度を目安にDOE4%以上を実現
- 自己株式取得 株主還元の手段として、資本効率の改善を目的に適時実施



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

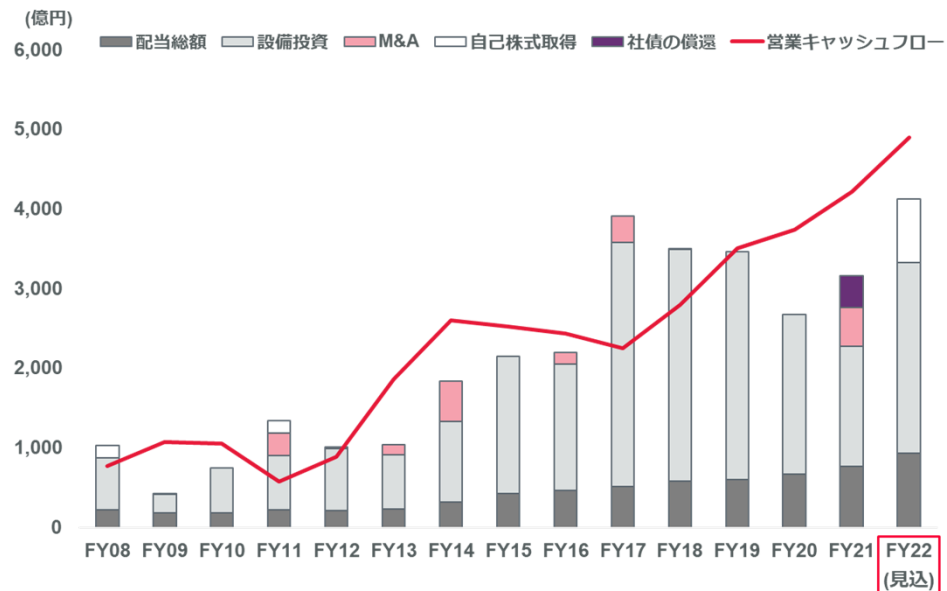
31

株主還元の推移です。

キャッシュ・フロー

22年度の営業キャッシュ・フローは増加を見込む。

設備投資を増額するほか、増配や自己株式取得など株主還元も強化を計画。



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

32

こちらもキャッシュ・フローのグラフですので、省略します。

トピックス



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

Resonant社の買収

概要



- 買収時期：2022年3月
- 買収金額：約350億円
- Resonant（レゾナント）社
 - － 独自の「XBAR技術※」を有する
（※ 圧電単結晶薄膜を活用する高周波・高耐電力対応が可能なフィルタ技術）
 - － 「XBAR技術」は5Gなどの高速で快適な無線通信を実現するために極めて重要な技術

買収による効果

- 高周波フィルタの製品ラインアップの拡充
- 高周波帯域向けフィルタの差異化技術として高周波デバイス事業の成長にも寄与

**「高周波・通信」での差異化技術の獲得
競争優位性の確立へ**

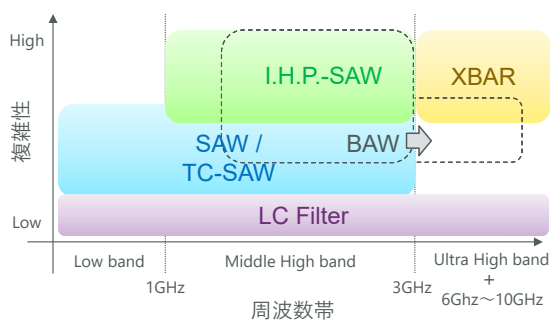
最後になりますが、トピックスとしまして、3月末にResonant社を買収しました。買収金額は約350億円で、効果につきましては、既にご案内の通り、XBAR技術を獲得し差異化を図っていくということです。

Resonant社の買収

XBAR技術の特長

- **高周波・広帯域での高い特性**
難易度の高い高周波・広帯域の領域において、周波数のフィルタリング特性(高減衰、低損失、急峻性)で優位性を発揮。
- **SAWフィルタ技術との高い親和性**
既存技術との高いシナジー効果。業界最大である当社SAWフィルタの生産能力も活用可能。

各フィルタと対応周波数帯



XBARのニーズ

5Gや次世代のWi-Fi規格が普及

通信端末が高周波帯における
信号を正確に受信することが必要に帯域幅の広い高性能な
高周波フィルタのニーズが高まる

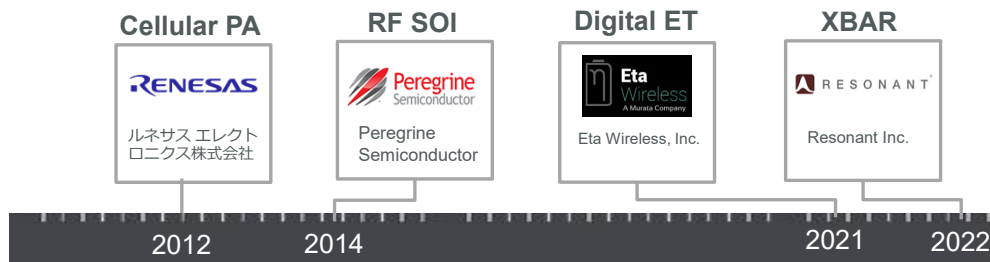
XBARの事業機会の拡大

詳細は割愛いたしますが、後ほどQ&Aパートでご質問等があればお受けしたいと思います。

トピックス

高周波デバイス関連のM&Aと獲得技術

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



2012年 Renesas

セルラー用PA事業を事業譲受。PA内蔵モジュールの開発・製造が可能に。製品ラインアップの拡充

2014年 Peregrine Semiconductor

特長のあるRF SOI(アンテナスイッチやLNA)の開発が可能に。低ロスで同業と差別化

2021年 Eta Wireless

消費電力低減に関わる新技術獲得。5G/6Gの普及拡大に向け重要となる技術。24年度実用化予定。

2022年 RESONANT

高周波化・広帯域化が可能なXBARを獲得。5G/6G向けにフィルタ事業を強化。23年度量産化予定

**通信市場で起こり得る変化に備えて必要な技術を獲得
成長機会を掴むため差別化技術を強化。成長路線への回帰を目指す。**

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

36

中期方針2024発表の際に、3層ポートフォリオについてお話をしました通り、第2層ビジネス、特にこの高周波デバイス関連で言えば、差別化技術というのが一つのキーポイントになるということで、これまでもルネサスエレクトロニクスのPAビジネス、Peregrine社、Eta Wireless社、今回Resonant社を買収してきました。こうした差別化技術を獲得することによって、さらなる成長を目指していきたいと考えております。

私からの説明は、以上でございます。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



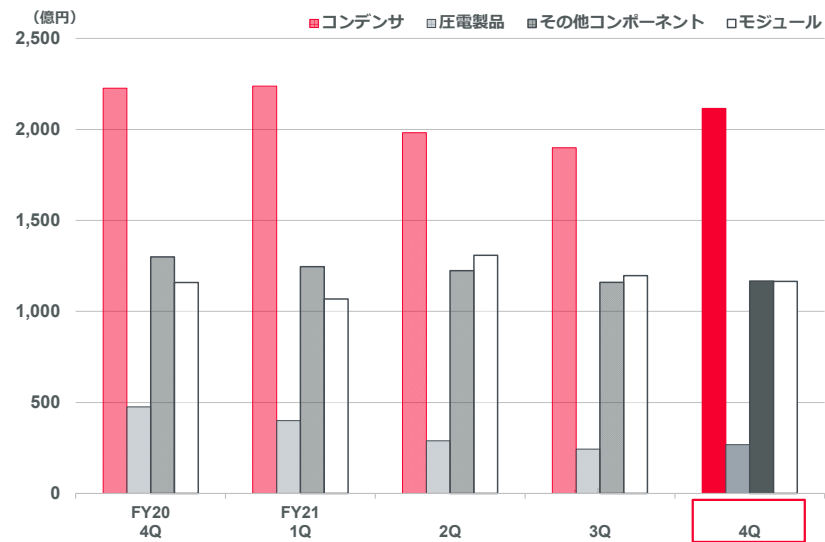
補足

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

補足

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

製品別受注高推移



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

10 May 2022 40

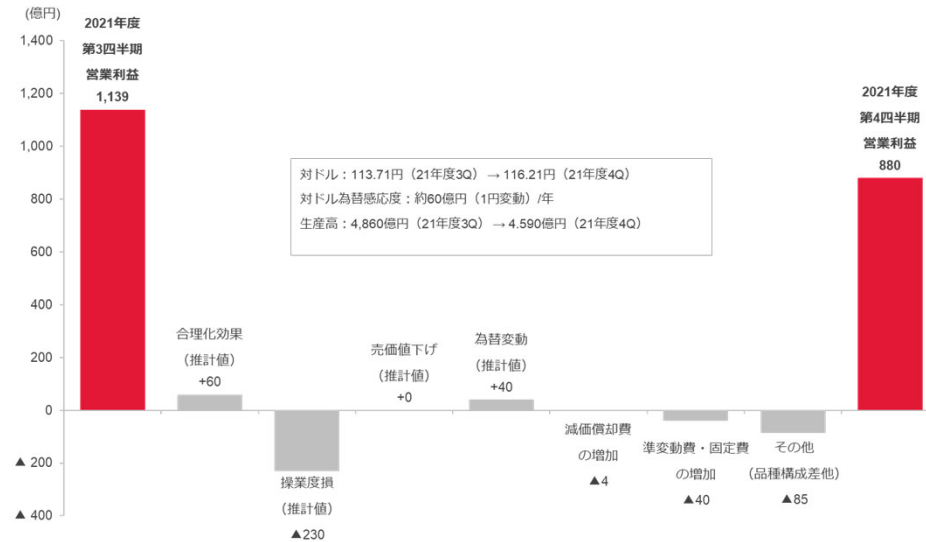
補足

業績概況 [2021年度第3四半期→2021年度第4四半期]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

	2021年度 第3四半期		2021年度 第4四半期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	4,714	100.0	4,331	100.0	▲383	▲8.1
営業利益	1,139	24.2	880	20.3	▲259	▲22.7
税引前四半期純利益	1,150	24.4	898	20.7	▲252	▲21.9
当社株主に帰属する 四半期純利益	826	17.5	637	14.7	▲190	▲22.9

利益変動要因 [2021年度第3四半期→2021年度第4四半期]



※操業度損益は売価値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※準変動費・固定費の増減には、一時費用の影響が含まれております。

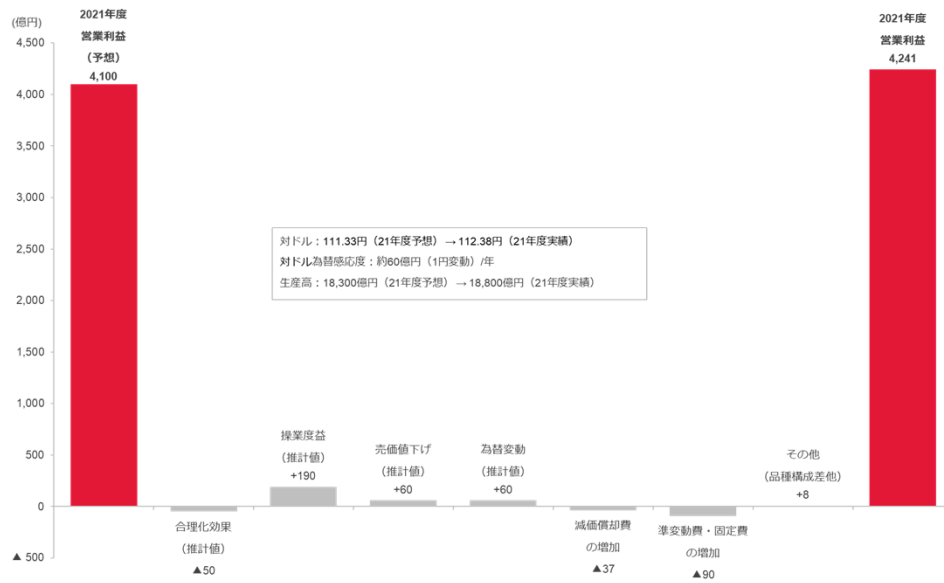
補足

業績概況 [2021年度通期予想→2021年度通期実績]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

	2021年度 通期予想		2021年度 通期実績		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	17,700	100.0	18,125	100.0	+425	+2.4
営業利益	4,100	23.2	4,241	23.4	+141	+3.4
税引前当期純利益	4,160	23.5	4,327	23.9	+167	+4.0
当社株主に帰属する 当期純利益	3,020	17.1	3,141	17.3	+122	+4.0

利益変動要因 [2021年度通期予想→2021年度通期実績]



※操業度損益は売価値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

※標準動費・固定費の増減には、一時費用の影響が含まれております。

補足

業績概況 [2022年度上期予想→2022年度下期予想]

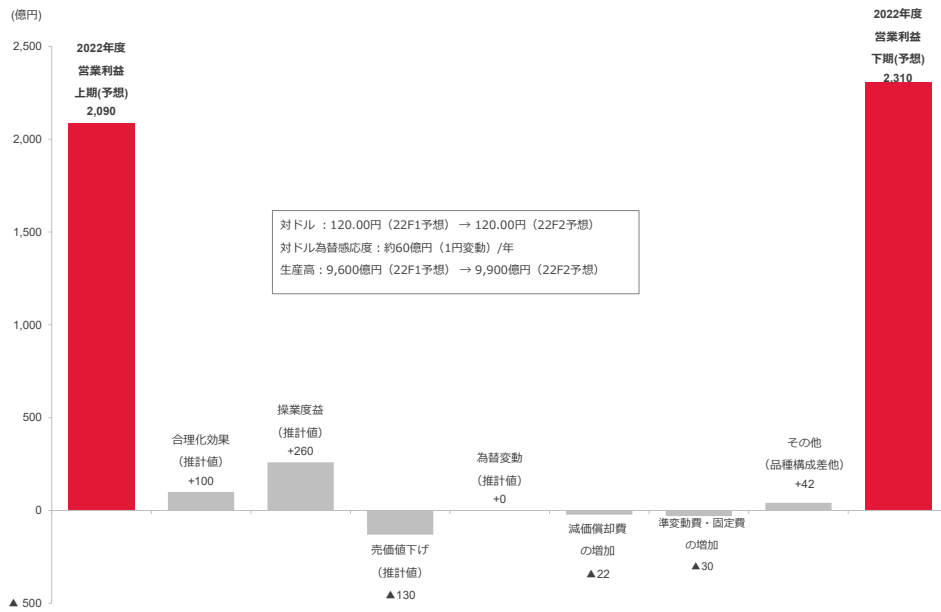
muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

	2022年度 上期予想		2022年度 下期予想		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	9,520	100.0	9,780	100.0	+260	+2.7
営業利益	2,090	22.0	2,310	23.6	+220	+10.5
税引前当期純利益	2,100	22.1	2,320	23.7	+220	+10.5
当社株主に帰属する 当期純利益	1,540	16.2	1,700	17.4	+160	+10.4

補足

利益変動要因 [2022年度上期予想→2022年度下期予想]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



※操業度損益は売価値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

46

補足

財務データ(1/4)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

	2019年度				2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268	4,252	4,686	4,095	4,396	4,685	4,714	4,331
営業利益	626	588	795	524	513	802	1,084	733	1,051	1,170	1,139	880
税引前四半期純利益	632	616	780	513	539	792	1,063	769	1,037	1,241	1,150	898
当社株主に帰属する 四半期純利益	468	439	561	362	396	603	765	607	772	906	826	637
設備投資	529	620	814	854	402	438	489	639	426	321	334	447
減価償却費	336	346	357	364	340	359	357	375	373	387	396	400
研究開発費	261	253	247	264	248	262	244	263	270	272	282	289
対ドルレート(円)	109.90	107.35	108.76	108.97	107.62	106.22	104.51	105.90	109.49	110.11	113.71	116.21

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

47

補足

財務データ(2/4)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

		2019年度				2020年度				2021年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
製品別売上高	コンデンサ	1,377	1,378	1,457	1,382	1,345	1,561	1,673	1,687	1,893	2,024	2,006	1,929
	圧電製品	314	319	336	323	264	344	320	366	388	376	334	286
	その他コンポーネント	924	986	928	792	774	1,013	1,070	1,020	1,109	1,210	1,212	1,073
	コンポーネント計	2,615	2,683	2,722	2,498	2,382	2,918	3,062	3,072	3,390	3,609	3,553	3,289
	モジュール	952	1,343	1,370	1,121	879	1,328	1,618	1,016	999	1,069	1,152	1,036
	売上高計	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245	4,680	4,089	4,388	4,678	4,705	4,325
用途別売上高	A V	169	177	148	116	154	207	184	173	190	206	166	153
	通信	1,639	2,121	2,261	1,900	1,592	2,221	2,477	1,759	1,857	2,071	2,104	1,761
	コンピュータ及び関連機器	586	606	581	532	680	713	745	777	897	931	925	851
	カーエレクトロニクス	668	661	662	644	428	664	800	839	827	821	803	912
	家電・その他	506	460	439	426	407	440	473	540	618	649	708	647
	売上高計	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245	4,680	4,089	4,388	4,678	4,705	4,325
地域別売上高	南北アメリカ	472	579	458	387	286	487	552	380	456	586	529	487
	ヨーロッパ	361	317	304	338	212	318	350	383	404	403	407	411
	中華圏	1,727	2,081	2,372	1,921	1,988	2,441	2,764	2,318	2,450	2,569	2,631	2,289
	アジア・その他	630	696	608	646	487	677	628	629	684	694	706	746
	海外計	3,190	3,673	3,743	3,293	2,972	3,923	4,295	3,710	3,994	4,252	4,273	3,932
	日本	378	353	349	326	289	322	385	378	394	426	432	393
	売上高計	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245	4,680	4,089	4,388	4,678	4,705	4,325

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

48

補足

財務データ(3/4)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

(億円)

		2019年度				2020年度				2021年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
コンポーネント	売上高	2,717	2,788	2,852	2,625	2,456	3,008	3,150	3,140	3,461	3,701	3,639	3,365
	事業利益	675	501	689	631	589	792	914	835	1,120	1,217	1,201	988
モジュール	売上高	952	1,343	1,370	1,121	879	1,328	1,618	1,016	999	1,069	1,152	1,036
	事業利益	79	179	219	17	69	148	329	▲4	85	110	111	79
その他	売上高	169	154	140	129	144	168	151	147	156	155	148	154
	事業利益	15	16	12	15	19	20	19	19	20	20	16	13
消去又は本社部門	売上高	▲264	▲251	▲260	▲247	▲211	▲252	▲233	▲208	▲220	▲239	▲226	▲224
	本社部門費	▲143	▲108	▲125	▲139	▲164	▲159	▲179	▲117	▲175	▲176	▲189	▲200
連結	売上高	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268	4,252	4,686	4,095	4,396	4,685	4,714	4,331
	営業利益	626	588	795	524	513	802	1,084	733	1,051	1,170	1,139	880

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

49

補足

財務データ(4/4)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

		2021年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q
製品別売上高	コンデンサ	1,900	2,034	2,014	1,938
	インダクタ・EMIフィルタ	493	519	511	435
	コンポーネント 計	2,393	2,552	2,525	2,373
	高周波・通信	1,283	1,374	1,402	1,224
	エナジー・パワー	426	453	488	437
	機能デバイス	267	277	263	256
	デバイス・モジュール 計	1,976	2,103	2,153	1,918
	その他	19	23	27	34
	売上高計	4,388	4,678	4,705	4,325
用途別売上高	通信	1,857	2,071	2,104	1,761
	モビリティ	827	821	803	912
	コンピュータ	746	770	751	707
	家電	442	483	471	437
	産業・その他	516	534	577	507
	売上高計	4,388	4,678	4,705	4,325

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

50

